

天何をか言うや

園長 児嶋 草次郎

四時行われ 百物生ず。天何をか言うや。

論語

あけまして、おめでとうございます。昨年はコロナ禍の中、大変なことも色々ありましたが、多くの支援者の皆様に支えられまた導かれ、子供たちも職員たちも1年間をなんとか乗り切ることができました。ありがとうございました。

新しい年 2021 年が始まりました。コロナも今年は終息することでしょう。この地球規模で人間を苦しめたコロナ感染症から私たちは何を学んだらよいのでしょうか。

地球は一つの生き物であり、人間はその地球を構成する細胞の一つなのかもしれません。人間が地球をコントロールしているわけでも支配しているわけでもなく、構成員としての自覚をもって、しっかり他の自然と共生していくこと、そのことを再確認させられたような気がします。石井記念友愛社の理念「天は父なり人は同胞なれば互いに相信じ相愛すべきこと」と、方針である「自然主義」をもう一度噛み締め直して、新たに歩み始めます。今年も、御指導・御支援くださいますように、よろしくお願い致します。

以下は 12 月 20 日、クリスマス会での園長としての話です

クリスマスおめでとうございます。

小規模児童養護施設「じゅうじの家」の6名の子供たちも合わせて、友愛園の子供たち 48 名全員、そして職員全員が、こうして無事にクリスマス会を迎えられたことを、何よりうれしく思います。昨年の 12 月に、中国の武漢という街で新型コロナウイルス感染症が確認されてからちょうど 1 年になります。おそらく最初、野生動物からだれか一人が感染したのでしょうか、この 1 年間で、この地球の隅々まで人から人に感染が拡大し、今や世界全体で 7550 万人が感染し、167 万人が亡くなったのだそうです（12 月 19 日現在）。これらの数字がどれほどのものなのか。日本の人口が 1 億 2400 万人とするならば、その半分以上が感染し、宮崎県の人口が 110 万人ですから、宮崎県民すべてが亡くなり、さらに鳥取県が 57 万人ですから、そのすべてが亡くなるほどの数字です。恐ろしい数字です。

幸い日本人は清潔好きで、ハグし合う習慣がなかったり、家に上がる時靴を脱ぐ習慣があったりで、今のところ感染症数は 19 万人ほどでおさえられています。死者は今朝の新聞で 2894 人です。先ほど無事にクリスマス会を迎えられたことを何よりうれしく思いますと述べましたが、この友愛園にコロナウイルスを侵入させずに 1 年をすごすことができたことが、すごくうれしいのです。子供たち・職員がそれぞれに衛生・健康管理に注意した結果だと思えます。みんなに感謝したいと思えます。

しかし、それにしても大変な 1 年でした。3 月から一斉休校が長く続きました。色んな行事が次々と中止になりました。最大の行事は東京オリンピックです。一応 1 年延期とはなりました。高校野球の甲子園大会も春夏中止になりました。園関係の行事では、夏のバレー・野球の

県大会が中止。みんなが楽しみにしていた、夏の盆帰省も出来ませんでした。友愛社独自の年間最大行事、収穫感謝祭も、保育園との共同主催をやめて、友愛園の子供・職員だけで小規模にやらざるを得ませんでした。

こうして振りかえると、散々な1年だったように思います。だからと言って時は確実に過ぎていくわけで、今年をもう一度来年やりなおしましょうというわけにはいきません。みんなも1年必ず齢を取ります。学年も一つ上がります。100年に一度の災害ですが、この1年のコロナ禍から学ぶべきことは何なのか考えてみたいと思います。3点あげます。

①、この新型コロナウイルスは、もともとは、野生動物の体内で生き続けたウイルスだそうです。おそらく何万年という間、人間に感染することはなかった。しかし、特にこの世紀になって、人間がどんどん自分たちの生活を豊かなものにするために、森林破壊など収奪的な土地の開発をやって来ました。その結果、野生動物がしだいに森から追い出されることになりました。そして人間と接触する機会が増えて、結果的に感染してしまった。こういう流れは、この友愛園においても無関係ではありません。森に檜の木や杉の木を植えれば植えるほど、野生動物にとっては、ドングリや草の実などがなくなっていきますので、エサを求めて人間の生活圏内に出没するようになります。友愛園周辺でも、シカ、イノシシ、タヌキ等が時々顔を出します。最近あったタヌキが、皮膚病にかかってあわれな姿になっているのが気になります。今、宮崎県では鶏インフルエンザが次々に養鶏場を襲っていますが、野生動物との共生を怠っていることと無関係ではないと思います。

人間にウイルスが感染して、世界的大流行（パンデミック）になるためには、人から人への感染が必要ですが、ウイルスにとって好都合な環境を人間は作ってしまいました。交通機関の発達と大都市の形成です。たった1年で、地球の隅々まで感染が広がってしまったのです。人間の欲望の生み出すこの「文明」を、コントロールできるか否かの分岐点に立たされていると、偉い人たちは言うておられます。

2015年に国連は、「持続可能な開発目標（SDGs）」を採択しました。2030年、までの目標として17のゴール（目標）を決めて、地球規模で努力しよう決めました。貧困、健康問題、不平等問題等と、産業、自然環境問題等は底辺で関連し合っているのであり、全体を常に視野に入れ解決に向けて努力しようとしているのです。

まさに石井十次の言葉、「天地は一体なり」がこの地球の宿命です。友愛社には「自然主義」という方針があります。みんなは土曜・日曜に畑に出て農作業（労作）をしたりします。この取り組みは、自分たちの精神力・忍耐力・自律力を養うだけではなく、自然との共生という、これから一番重要な課題にも取り組んでいるという自覚を、新たに持ってほしいと思います。これは誇りとしなければなりません。

②、2番目です。14世紀頃、ヨーロッパを中心にペストという感染症が大流行したことがあります。当時のヨーロッパの人口の3分の1から3分の2が亡くなった（イギリスやフランスでは半分位）と言われていました。恐ろしい感染症でした。これだけ大きな災害があると社会は大きく変わります。その後現れたのがルネサンスです。再生とか復興と言われていますが、物事の考え方が革新していきました。

このコロナが終息した後、世界はどう変わるのか。考えてみてください。今コロナの第三派がやって来て東京、大阪など大都市では、すごい勢いでコロナ感染が広がっています。宮崎でも現在毎日10名前後発生していますが、どれも都会から持ち込まれたものです。「3密」を避けようと言われていますが、都会そのものが三密です。このコロナ禍で、大都会がいかにこのような災害に弱いかが証明されることになっているのです。東北大地震のような災害も予想さ

れる中、今までのような「東京一極集中の時代から地方への分散化」が始まるかもしれない。それを後押しするのが「テレワーク」などと呼ばれている、パソコンを使ったインターネットを活用する仕事です。一気に多様化し

加速していきだろと言われています。大都会にいらなくても地方で仕事ができるのです。AI（人口知能）を使った仕事もどんどん増えていく。ホテルなどの受付をロボットがやるというケースも見られるようになって来ています。

こういう流れは、ここにいるみんなの自立にとってプラスになるのかマイナスになるのか、考えてみてください。コロナ禍の中で多くのサービス産業が倒産しています。なぜつぶれるのかと単純に言うと、お客さんは来ないのに、従業員に給料を払わなければならないからです。このコロナが終息しても、次また別の感染症が来ることを想定して、大きな革新がなされていくにちがいない。いずれにしろ、みんなにとって、これからの社会は甘いものではないということでは予想できる。そういう社会で戦っていける人間に成長しておかねばなりません。特に中・高生みんなは、時代の大きな節目に立たされているという自覚を持って、ここでの修行に取り組んでほしいと思います。

③、3つ目です。今年の田植えの時、隣の畑で、インドかベトナム系の外国人女性がネギを植えていたのを覚えていますか。みんなは何を思いながら見つめていたのか知りませんが、私にとってはショックでした。こんな田舎の農場でも外国人が働くような世の中になったのです。

コロナが1年間で世界の各地にまで広がったということは、それだけ地球が小さくなったということです。昔は何か月もかけて地球の裏側に行っていたのに、今は飛行機であつという間に行ける。

今年はコロナ禍で、飛行機はあまり飛ばなくなりましたが、昨年の訪問外国人は、3180万人だそうです。東京の人口の2倍以上の外国人が来るような社会になったのです。まさにグローバルな社会になったのです。今年はコロナ禍で外国人の訪日はストップしたような形になっていますが、これが終息したら、おそらくその反動もあり、いっきに多くの外国人が来日するようになると思います。このコロナ禍の中でも、日本人がしっかり自粛した生活をしてあまり患者を出さなかったということも、安全安心な国日本という評価を一層高めることになると思いますので、外国人がどんどんやって来るようになる。

田植えの後にみんなに話したことですが、これから日常的に外国人と一緒に仕事をする時代が確実に来ます。彼らと仕事を取り合う時代が来ます。彼らに負けない人間であらねばなりません。負けない人間とはどういう人間なのか。基本的な生活習慣の確立した人間であること。自律力（自己コントロール）を身につけた人間であること。そして、忍耐力や精神力を身につけて働くことを厭わない（嫌がらない）人間であること。

この1年のみんなの生活を振りかえると自分の目標に向かって着実に努力を続け、力をつけて来た者もいるけど、事故、事件をおこした者もけっこういます。そういう者は、自分の弱さをしっかり自覚し、来年こそは、石井十次先生のお墓の前で、「この1年精一杯努力しました。」と胸の張れる人間に成長してほしいと思います。

アメリカやイギリス等では、もうコロナワクチンの接種が始まっています。日本も3月頃から始まるのではないかと期待しています。希望を持って、プラス思考で新年を迎えたいと思います。みんなも来年を、希望とプラス思考と新たな決意で迎えてください。